

小学校プログラミング教育実施レポート

令和2年度から必修化された小学校プログラミング教育の実施の様子を紹介するものです。
 未来の学びコンソーシアムにて実施内容の精査を行うものではありません。

学習活動名	算数科「直方体と立方体」
学年	小学校第4学年
目標	平面上にあるものの位置の表し方（2つの数を使った）を理解する。
教材タイプ	ビジュアル言語
使用教材	Codey rocky , iPad
環境	児童4人班で1台の機材を使用
都道府県	岡山県
実施校	瀬戸内市立邑久小学校
学習活動の概要・児童の様子(プログラミングの活動を中心に記載ください。)	<p>1 本時のめあてを確認する。 めあて「Codey を〇〇に連れて行こう」</p> <p>2 班で地図上のテレビ塔に向かうためのプログラミングを考える。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>【地図の上で道順を確認】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【プログラミングを入力】</p> </div> </div> <p>3 各班のテレビ塔までの行き方を確認し、共通点を見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各班の Codey の道筋を色分けして地図に整理することで、共通点（方向と距離）を見つけやすくする。 <p>※位置の表し方（東〇〇m、北〇〇m）について知る。</p> <p>4 他の目的地への行き方のプログラミングを考え、Codey で試してみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 位置の表し方をもとにプログラミングして Codey を動かすことで、2つの数の組が位置の表し方になっていることを確認しやすくする。 <div style="text-align: right;">  <p>【プログラミングと地図を比較して確認】</p> </div> <p>5 まとめをする。 まとめ「2つの数の組をつかうことで、位置を表すことができる」</p> <p>6 練習問題に取り組む</p> <p>7 ふり返りをする。</p>
成果と課題	<p>成果：プログラミングを設定する過程で、目的地までの位置の確認の際に、児童は、自然と座標の読み方ができていた。また、Codey が地図上を走行する際に、自分が地図上を動いている感覚で確認していたため、位置の表し方の理解が深まった。</p> <p>課題：拡大地図の上で走行させたが、正しくプログラミングしても目的地の位置にズレが生じるため、機器の事前設定に時間を要した。</p>